

『論語』と『韓非子』に学ぶ 成功する組織の条件



日本の企業は、『論語』や儒教の影響を受けた「家族主義的」「温情的」経営を伝統的にやっているところが今でもたくさんあります。そして、これらの特徴は日本企業の様々な強みを生みだしてきました。

ところが昨今、グローバル化や世代間格差による価値観の多様化などによって、従来のやり方が通用しなくなってきた面があります。

中国古代、『論語』や儒教的な組織観の問題を見抜き、それに対抗するために生まれてきたのが『韓非子』という古典に他なりません。『韓非子』は、外部が厳しい競争環境で、しかも部下が信用できないという条件の中、組織が一つにまとまり、しかも成果が挙げられる方法を考案しました。以後、中国では『論語』と『韓非子』二つのやり方をうまくバランスさせることが、いい組織を作る基本だと考えられています。この二つの古典をもとに、よき組織を作る方法について守屋講師にお話いただきます。

【日時】 2019年11月28日(木) 15:00～17:00(受付開始14:30)

【講師】 守屋 淳(もりや あつし)氏 作家/グロービス経営大学院客員教授

<プロフィール>

1965年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。2018年4～9月トロント大学倫理研究センター客員研究員。著訳書に23万部の『現代語訳 論語と算盤』や『現代語訳 渋沢栄一自伝』、シリーズで20万部の『最高の戦略教科書 孫子』『マンガ 最高の戦略教科書 孫子』『組織

サバイバルの教科書 韓非子』などがある。

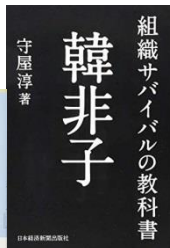
【内容】

～「論語」から～

- ・ 国民の信頼が失われてしまえば、政治そのものが成り立たなくなる(民、信なくんば立たず)『論語』顔淵篇
- ・ 君主が家臣を使うには礼を基本とし、家臣が君主に仕えるには、良心的であることを旨とする(君、臣を使うに礼を以ってし、臣、君に事うるに忠を以ってす)『論語』八佾篇

～「韓非子」から～

- ・ 君主がしていけないことは、相手を頭から信用してかかることである。そんなことをすれば相手からいいように利用されてしまう(人主の患いは人を信ずるに在り。人を信ずれば則ち人に制せらる)『韓非子』備内篇
- ・ 君主と臣下とは、一日に百回も戦っている。臣下は下心を隠して君主の出方をうかがい、君主は法を盾に取って臣下の結びつきを断ち切ろうとする(上下は一日に百戦す。下はその私を匿して用ってその上を試し、上は度量を操りて以ってその下を割く)『韓非子』揚権篇



【日時及び会場】

開催日時:2019年11月28日(木) 15:00~17:00(受付14:30)

会 場:八戸パークホテル 2階 アジュール

青森県八戸市吹上1丁目15-90 Tel.0178-43-1111(代表)

[JR八戸駅より車で20分または本八戸駅より車で5分、大駐車場完備(200台収容可)]

【参加費】 無料

【お問合せ】 東京中小企業投資育成(株) ビジネスサポート部 大村 TEL : 03-3499-0755

【申込期限】 11月27日(水) 【定員】 60名(先着順)

【申込方法】 <https://www.sbic.co.jp/seminar/>からお申し込みいただくか、以下の受講申込書にある必要項目について、Eメールgyoshi-seminar@sbic.co.jpにてお送りください。本受講申込書のFAXによるお申込みもできます。なお、受講票等はございません。受付開始は14:30からです。

受講申込書

東京中小企業投資育成(株) ビジネスサポート部 大村 行
F A X:03-3499-0819 Eメール:gyoshi-seminar@sbic.co.jp

『論語』と『韓非子』に学ぶ成功する組織の条件

貴社名		
講演会 ご参加者 役職名・氏名(複数名のご参加も可能です)		
ご連絡先	TEL	FAX
	E-mail	
日本政策金融公庫からの融資について (どちらかに○をお書き下さい)	既融資先企業 ()	未融資先企業 ()
投資育成からの投資について (どちらかに○をお書き下さい)	既投資先企業 ()	未投資先企業 ()
ご記入いただきました個人情報は、各共催者が参加者名簿として、またセミナーの企画・運営・実施のために使用する他、関連するアフターサービス、必要な情報の提供及び各種ご案内のために使用します。なお、個人情報の共同利用等の詳細につきましては、東京中小企業投資育成株式会社のプライバシーポリシーをご参照ください。共同利用する個人データについては、各共催者がそれぞれ責任を持って管理いたします。		